

(様式2)

学校関係者評価報告書

(愛媛県立三崎高等学校)

学校番号 (37)

評価実施日		令和 6年 2月 29日 (木)	
委員	氏名	所属等	備考
	黒川 信義	学校評議員	
	土居 由美	学校評議員 学校関係者評価委員	
	山本 成明	学校評議員 学校関係者評価委員	
	宇都宮 喜美子	学校評議員	
	三好 利文	学校評議員	
	富士田 邦義	三崎駐在所長	
	野村 雅英	伊方町立三崎中学校校長	
	黒田 立史	伊方町立三崎小学校校長	
	谷村 栄樹	伊方町総合政策課長	
	中村 敏彦	愛媛県立三崎高等学校同窓会長	
	清水 貴志	愛媛県立三崎高等学校PTA会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 教育活動について</p> <p>(1) 本校の取組について</p> <p>地域とともにある学校として、様々な取組が積極的になされている。教職員の負担過多にならないように、現在取り組んでいることをブラッシュアップしていけばよい。</p> <p>地域のイベントや他校との活動がたくさん入り、とても忙しいのではないかと感じる。学校行事や部活動のスケジュールも入り、時間が十分に取れないのではないかと心配である。方向性は、今のままで良い。高校生なので、地域課題の改善策なども探究できるとよい。</p> <p>情報発信が重要である。</p> <p>伊方町には様々な問題（人口減少、少子化など）がある。スクール・ミッションにもある町や地域住民と連携して行う探究型、課題解決型の学びを町づくりに生かしてもらいたい。</p> <p>地域のイベントに可能な限り、参加してもらい、交流を深めて盛り上げてもらいたい。様々な形で地域の発展に貢献する取組はすばらしい。生徒が一人でも多く、伊方町に残ってもらえたらなお良い。</p> <p>(2) 三崎高校主催「今を創る、未来を変えるトライブ」について</p> <p>「今を創る、未来を変えるトライブ」の取組で生徒が多くを学び、成長する。</p> <p>「今を創る、未来を変えるトライブ」はすごく良いと思う。継続して行ってほしい。</p> <p>(3) 新学科「社会共創科」の設立に伴って</p> <p>次年度からは放課後活動を充実させていくため、未咲輝ゼミと部活動との時間調整が大切である。</p> <p>次年度から始まる「地域探究」では、地域の生活、文化、自然、歴史などの理解がさらに必要になると感じる。</p>	<p>・次年度から新学科「社会共創科」が設置される。新学科では、放課後の時間を有効活用し、生徒の自主性を伸ばしていくことを目的とするため、週当たりの時間を29時間に行っている。生徒共に教職員の時間も増えることになるので教職員も上手に時間を活用し、負担が少なくなるようにスケジュール等についても検討し、最適な形で実践していきたい。</p> <p>・新学科が発足し、地域と連携することで新たな発見に気づくことが多くあること想定している。地域のイベントへの参加など交流を深めることは、高校が地域に貢献できる機会になると認識し、今後も実践していきたい。持続可能な取組とできるよう、スケジュール管理などしっかりとした体制を整えたい。それにより、しっかりとプレスリリースできる準備を整える時間を設けることも可能である。</p> <p>・「今を創る、未来を変えるトライブ」は新学科の目玉となるフォーラムである。まだまだ検討していく余地は多々あるが、「三崎高校にはこれがある」と言えるように準備を進めたい。</p> <p>・制度も含めて、仕組みを検討中である。講師や顧問と連絡を取り合えるボードの設置することが決定している。</p> <p>・「地域探究」に限らず、様々な探究の切り口を考えており、生徒のニーズに合ったものを構築したい。</p>

2 学校評価及び学校運営の改善方策について

(1) 学校評価アンケートについて

生徒はいきいきと学校生活を送っているようだ。一部、保護者からの厳しい意見が見られる。また、「質問や悩みの相談などに適切に応じているか」という質問に対して、4, 3の割合が80%をして回っている。このことから、保護者との対話や相談体制の充実に一層力を入れると良い。

毎日行きたくなる魅力的な学校であると感じる。教職員の精力的な指導で成果が出ていると思う。

評価はあくまで人の意見なので過敏になる必要はないと思
保護者会からのアンケートについて、少数意見だけにとらわれず、重みをつけて対応することで良い。また、評価点数化、割合について理解しづらく考察のみの説明会で良い。勉学は大切だが、一番は学校が好きで通ってもらうことが大事。保護者から評価されている、学校への要望、厳しい意見などがあるが、学校づくりに生かしてほしい。

中学校の評価は必要ないと思う。生徒の評価を載せてほし

(2) 自己評価表について

各領域について、詳しく分析し、厳しい目で自己評価されている。課題の改善策も具体的に示されているため、次年度に反映させてほしい。

わかりやすく、理解が進む、良い授業をしっかりと行い、生徒の気持ちに寄り添う指導者として、教職員一人ひとりが精進してほしい。

教科指導の充実で、資格検定の評価がEとなっている。資格を持つことは損にはならないので、取得するよう指導してもらいたい。

・生徒が魅力的に感じる学校づくりを目標にスクール・ミッションやスクール・ポリシーを作成してきた。その成果として支持してもらっていると理解している。今後は新学科の設立とともに生徒が通いたくなる、楽しくなる学校づくりを心掛けて、教職員全員で協力していきたい。

・厳しい意見については、少数とはいえ、大切な意見として今後、参考にするべきであると考えている。細かいことにも注意を払って、より良い学校の雰囲気醸成できるように連絡を密にとっていきたい。

・学校が好きで通ってくれている生徒に対しては、せっかく通っているからこそ、その生徒がもらえるギフトを与えることができるように、能力の向上に取り組んでいきたい。

・次年度、検討したい。

・改善策をもとにより良い学校づくりを行っていきけるように取り組んでいきたい。

・わかりやすく、理解が進む授業を行うことは教職員として当然のことである。しっかりと精進していきたい。

・指摘のとおり、資格の取得は大変重要である。取得することができるよう、指導の方法を改善していきたい。